

# 料亭旅館 銀鱗荘

- 物件名：料亭旅館 銀鱗荘
- 住所：桜1-1-13
- 電話：54-7010
- 所有者：株式会社銀鱗荘
- 運営：株式会社銀鱗荘
- 主任と人員：阿部敏彦（執行役員・総支配人）46人
- 建物履歴：
  - 明治6年 越後出身の網元猪俣安之丞邸創建
  - 明治33年 邸宅大改築（宮大工米山仙蔵施工）
  - 昭和13～14年 北の誉資本により購入し現在地に移転  
北海道開拓70年と株式会社北海ホテル  
創業20周年の記念行事として移築。
  - 昭和14年 料亭旅館「銀鱗荘」として創業、第23代北  
海道長官石黒英彦（昭和12年6月5日 -  
昭和13年12月23日）命名→北海観光所有
  - 昭和60年 北海観光（柴野氏）より株式会社ゴルフ  
ダイジェスト社が購入
  - 昭和61年 全館改修 温泉のポーリング開始
  - 平成2年 新館増築
  - 平成5年 小樽市都市景観賞
  - 平成19年 本館リニューアル



外観



外観グリル館



庭園に囲まれたグリル館

## ■外観

- ①木材／然別・赤井川方面のとど松、タモ、栓、栗
- ②屋根／当初若狭瓦、修築時に三州瓦
- ③望楼／天守閣を思わせる望楼は釘一本使わない梁と柱構造
- ④輸入石材／正面腰羽目に使用の大型花崗岩
- ⑤庭／雨戸を入れる戸袋には鯉や兎などが波とともに描かれている。

## ■内観

- ①神棚／二間半の豊漁祈願の大神棚
- ②鶴の間／川合玉堂の「松と鶴」掛け軸、  
田中針水の「鯉運び」廊下の絵
- ③石狩の間／浅沼一道の書
- ④渡り廊下／鏡谷抱円の襖絵
- ⑤囲炉裏／真鍮の鶴亀や波に千鳥彫りの炉カギ
- ⑥窓／床の間の窓は書院造りで明かり取りと庭鑑賞のため。  
窓はゆがみのある時代製造。
- ⑦梁と柱／釘を使わない宮大工の技が光るグリル2階（元網蔵）

## ■内容

昭和60年に株式会社ゴルフダイジェスト社代表取締役木村襄司氏が林義紘氏の紹介で、建物の豪華さと立地が気に入り購入を決意。以後株式会社銀鱗荘を設立し旅館として運営。

## ■客層

地元客は会食はじめ冠婚葬祭や催事で利用、観光客は道外客が多く、東南アジアの個人の連泊客が増加中。



グリル館2階の見事な梁



グリル館2階の応接

# 銀鱗荘



ファンタジー100%



囲炉裏から玄関を望む



応接の梁も女子と名堅牢さが



開放された和室



格式の空間



格天井の応接



三重の庇



質素にして豪華な欄間



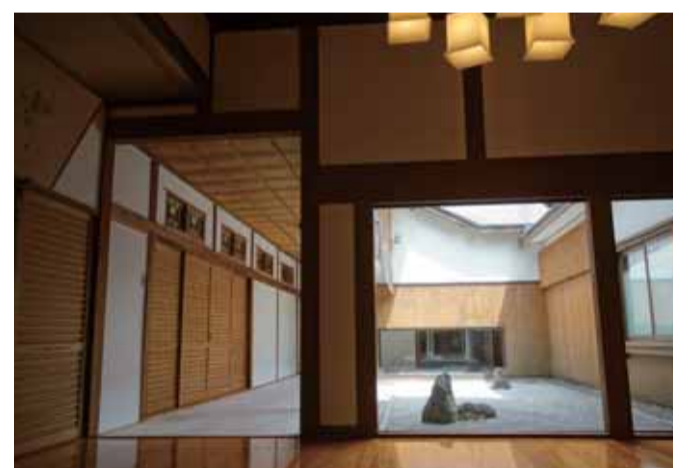
照明器具にも統一感



神棚と囲炉裏



石庭



石庭を望む廊下



欄間の彫刻にも気配り



梁の上には望楼からの明かり



和みの廊下